

宮城県漁業士会報

▶▶ 第 3 号 ◀◀

海 (かいと) 人

平成12年 2 月

発行 宮城県漁業士会

仙台市青葉区本町三丁目 8 番 1 号

(宮城県産業経済部労政・人材育成課内)

TEL 022-211-2764

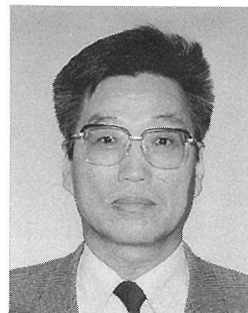
FAX 022-211-2769



アワビの開口 (本吉町大谷)

漁業士の皆様へ

宮城県産業経済部長 千葉 眞 弘



漁業士の皆様方におかれましては、日頃から漁村地域活性化並びに漁業後継者の育成等にご尽力されていることに対しまして深く感謝申し上げます。

本県水産業は、食料としての水産物の供給だけでなく、漁業を産業の基幹としている地域の経済活性化という観点から、将来に亘って発展的安定が求められております。

こうしたことから、本県といたしましては、資源管理型漁業及び栽培漁業の一層の推進と養殖漁場環境の維持保全、意欲ある人材の育成、快適な漁村空間の整備等を推進し、自然と調和した産業として発展していくための施策の展開を図り、新たな時代における活力ある水産業の構築を目指す必要があります。

このためには、漁業士である皆様方が今まで以上に中核的な役割を果たされ、豊かな漁村社会の実現に向け、水産業界を牽引していく原動力になっていただきたく、一層のご活躍を期待する次第であります。

宮城県では、昨年四月より産業経済の一層の振興・発展に向け、農林水産業と商工労働の各分野の連携を強化するため、従来の農政部、水産林業部、商工労働部を一体化して「産業経済部」を発足させました。このことにより、一次産業から三次産業までの総合的な産業振興を図って行くこととしていますが、本県産業までの総合的な位置づけにあります水産業に対しても、重点的な施策を展開し、人づくりや経営基盤強化を推進していく所存でありますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

このように、今後の漁業士活動に対する期待が高まる中、皆様方取り組まれている地域漁業の振興に関する活動を会報誌「海人」として発行されますことは、水産業における漁業士会の役割を広く理解してもらうために、誠に意義のあることであり、これを今後の活動の励みとしていただくことを期待しております。

最後に、皆様の活動が漁村地域の振興にとって大きな力となりますよう、また、今後益々の漁業士会の発展をご期待申し上げて挨拶とさせていただきます。

漁業士海外派遣研修に参加して

青年漁業士 内海 公男

(塩釜市浦戸漁業協同組合)

私たち漁業士五名は平成十一年九月十二日から七日間、海外での資源管理や環境保全、食品の衛生対策等を視察研修するため、カナダのブリティッシュコロンビア州のバンクーバー、ビクトリア周辺を視察してきました。主な視察先はカナダ政府の研究機関、民間の加工会社、公設の市場などで、研修先での話を総合的にまとめると、まず漁業というものは豊漁、不漁の波が必ずあって、それを資源を枯渇させないでいかに永続的に安定生産していくかということに尽きるということです。

また、シーフードは高級、かつヘルシーな食品としてその価値を見直されていますが、漁獲を増やそうという努力によって資源を減らし、海洋汚染を招くという悪循環に陥っています。「資源管理」「漁場環境保全」という二つの命題を、国を巻き込んだ流れとして、世界の流れとしていくよう、私たち漁業者が率先して行動していかなければならないと思います。研修全般に関して感じたことですが、訪問先での説明を通訳の方が私たちに通訳し、私たちの質問を通訳の人に答えてもらう。言葉が通じないということは本当に時間のロスがあるものです。もっともっと聞きたいことがあったのと思いました。

研修三日目には、グランビルアイランドというところにあるパブリック・マーケットに立ち寄りましたが、何種類か置いてある殻付きカキの写真を撮っている

と、地元の人が「一番おいしいのはこのカキです。」と言って「ロイヤル・ミヤギ」という品種のカキを指さして教えてくれました。宮城県でカキの生産に取り組んでいる私にとっては絶大なる応援を受けたような気がしました。

研修を通して残念に思った点は、どの研修先でも実際の生産現場、漁場を見る機会がなかったことです。今後、研修を企画する際にはこのような点にも配慮すべきだと感じます。

最後になりましたが、このような研修の機会を与えてくださった漁業士会員の皆様、県の関係者の皆様他、多くの方々に感謝します。どうもありがとうございました。



キャピラノさけふ化場視察

一言コメント

大山 茂宏(松島町漁業協同組合)

カナダの衛生管理については、民間の加工会社、缶詰会社で話を聞きましたが、カナダで行われている衛生管理手法(QMP)はHACCPよりも優れた衛生管理であると担当者が自信たっぷりに話していたのが印象的でした。私たちも国は違いますが、食品を供給する漁業者として、厳しい管理のもとに衛生的な食品を作っていくかなければと思いました。

日本向けの輸出に対しての衛生基準はそれほど厳しくなく、逆に大手スーパー等が内部で行う管理基準の方が厳しいというカナダ側の意見を聞いて、日本の輸入水産物の衛生基準はまだ甘いと感じられました。今後は輸入水産物の衛生基準の見直しが必要ではないかと感じられ、私たち漁業者も、もっともっと衛生管理に目を向けていかなければならないと感じました。

菊地 幹彦(巨理町漁業協同組合)

カナダの漁業制度や、他の産業の中の漁業の位置付けなど、日本とは非常に違っており、自分にとってはとても新鮮に映りました。

例えば漁業制度については、日本の漁業権と違ってライセンスという制度があることや、観光やレジャーに海を使うのが盛んであり、日本と比較すると漁業はそれほど重要視されていないようです。それでも海の生産力は非常に豊かで、漁業とレジャーはうまく共存していると感じました。

日本においても、漁業は今までのようなやり方ではなく、他の産業やレジャーと共存していくことが益々重要になると

思います。

今後、漁業者が生き残っていくためには、いかに海を使っていくか、また、漁場環境をどうやって維持していくかということを考えていかなければならないと痛感しました。

カナダ研修日程

研修月日	研修地区	研 修 先
9月12日	バンクーバー	Fisheries & Oceans Government of Canada (BC州水産局) Capilano Salmon Hatchery (キャピラノさけふ化場)
9月13日	バンクーバー	自主研修(午前中) Hosho Canada Inc. (水産加工・輸出企業) Glanville Island Public Market (水産物市場)
9月14日	バンクーバー	Canadian Fishing co. (缶詰加工・HACCP関連)
9月15日	ナナイモ	Pacific Biology Station (連邦政府ナナイモ海洋研究所)

伊藤 康彦(雄勝町雄勝漁業協同組合)
今回の研修では、他国の水産業に対する考え方・取り組みを日本と比較し、その違いなどいろいろな面で勉強することができました。

その中でも環境に対する考え方のあまりの違いにとっても驚きました。例えば、カナダの場合、地元「企業」などの新たな産業が来るとなると、住民は環境が破壊されるからといった理由で猛反対します。しかし、日本の場合は、環境よりも経済や雇用を優先としているのが現状ではないでしょうか。まさに「所変われば」といった感じでした。また、カナダのサケ養殖が漁業者から

企業に替わったことを聞いたとき、仮に、私が企業の人に「食糧資源としての海の重要性」を議論しても、簡単に「私なら海をもっと効率的に使いますよ」と言われそうです。我々は、漁業生産者から経営者に代わらなければならぬと思います。漁連の共販に任せっぱなしでなく、市場の動向や販売の仕方などを勉強し、販売にもっと関心を持つべきだと感じて帰国しました。



リッチモンドの漁港

高橋 源一（志津川町漁業協同組合）
海外研修に参加させていただき、貴重な体験と楽しい思い出ができました。サケ、ニシン等を中心とした水産がカナダにとっても大きな存在であることが思い知らされました。

色々と視察・研修をしてきましたが、「この大切な海を子々孫々まで残していく責任を私たちは持っています。」というBC州水産局のジュネツさんの言葉が、今回の研修の全てのような気がしています。

東北・北海道ブロック 漁業士研修会について

副会長 水間 徳一
(七ヶ浜町漁業協同組合)

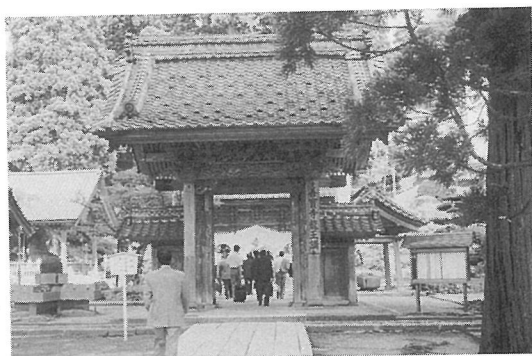
今年のブロック研修は七月六日と七日の二日間、山形県鶴岡市において、北海道から茨城県までの八道県から漁業士四十名、県の担当者など十八名が参加して開催されました。

まず、研修に先立ち心配なことがありました。交通の便です。車で行った方がよいのか、JRの方がよいのか迷っていたところ、事務局の担当の方から鶴岡までのバス直行便が仙台から出発しているとのこと安心しました。バスの中は禁煙となっており、ヘビースモーカーの私にはかなりきつい旅でした。

初日の研修会ですが、講演は善寶寺住職の齋藤信義氏より善寶寺の歴史、現在は海運全般の守り神となったことなどに



研修状況



善寶寺視察

ついて貴重なお話がありました。

その後、各県の漁業士活動の現状と問題点について報告されました。その中で感じたことは、どこでも漁業士への認識度が低いということでした。そのためにも少年水産教室等へ講師として出席し、漁業士の名を広めていったほうがよいのではないかと思います。意見交換の中では女性の漁業士さんの活動報告を受けました。女性の漁業士は海上作業はしないで地域活動を中心として魚食普及活動を行っているということでした。私の思っていた女性漁業士というのは海上作業をしている人だったので認識不足を思い知りました。

次の日は善寶寺にて大漁祈願の祈禱のほか、住職の特別の計らいで滅多に見学できない奥の院を見学させていただきました。特別な御利益があったような気がしました。その後、山形県栽培漁業センターに行き、ヒラメ、アワビの種苗生産施設を視察して帰路につきました。

宮城県がき養殖問題 研究協議会について

青年漁業士 畠山 政則
(唐桑町漁業協同組合)

「宮城県がき養殖問題研究協議会」は、カキ養殖技術の研究や指導及び食品としてのカキの安全意識の啓発を目的に、カキ関係組合長会の下部組織として平成十一年五月二十四日に設立されました。その中で私は協議会の副会長を命ぜられました。今回はその活動のひとつとして「第三回全国がきサミット三重県大会」に派遣されたので、その報告を中心に述べたいと思います。

第三回全国がきサミットは、平成十一年六月二十二、二十三日に三重県の鳥羽市で開催され、カキの消費拡大と流通戦略をテーマに基調講演や総合討論を行いました。総合討論の中では韓国等からの輸入カキの取り扱いについて生産者同士の議論があり、私は宮城県参加者の総合意見として、採取海域表示の義務化に違反した場合における、県漁連のペナルティの徹底やその後の監視体制の強化と併せ、その他山積みしているカキ養殖に関連した問題を解決するための全国レベルでの組織づくりの必要性を提言し、多くの賛同を得てまいりました。

私は、国際競争に打ち勝つためには高品質のカキ生産を行うとともに、宮城県産カキをブランド化し、顔の見える販売を行うことが、これからのカキ養殖に求められているものと思っています。

今後は、この協議会を通じてカキの生産者を取り巻く環境が少しでも改善されるよう提言し、微力ながら尽力するつもりです。

支部だより

▼北部支部

宮城県漁業士会北部支部・ 岩手県漁業士会大船渡支部 交流会開催について

指導漁業士 三浦伸一
(本吉町漁業協同組合)

岩手県漁業士会大船渡支部との初めての交流会が、平成十一年九月十六日に国民宿舎「からくわ荘」を会場に開催され、両支部から十六名ずつ、合わせて三十二名(うち女性一名)の漁業士が参加し、親交を深めました。

始めに、北部支部の支部長である私と大船渡支部の千田勝治支部長が挨拶をし、気仙沼水産事務所阿部総括次長、地元の唐桑町漁協畠山組合長から祝辞をいただきました。

交流会では、まず全員の自己紹介をした後、両支部の活動報告を行いました。北部支部からは昨年度の海外派遣研修について、三浦富一漁業士が報告し、大船渡支部からは四名が「これまでの漁業士活動について」、「漁業士と婦人部・青年部との連携について」、「漁業士について」、「家族経営協定研修会について」という内容の報告がありました。

次で行われた意見交換では、カキ、ワカメ、ホタテの養殖や後継者の話題が中心となり、引き続き行われた懇親会ではさらに盛り上がりしました。

今回の交流会は、大船渡支部が今年結成されたのを機に開催の申し入れがあっ



参加者全員での記念写真

▼中部支部

技術交流事業に参加して

指導漁業士 伏見真司
(石巻地区漁業協同組合)

平成十一年三月十八日から二十日まで、北海道厚岸町の方へ、「シングルシードによるカキの人工採苗とその技術」、そしてカキの生産販売を含めた取り扱い等について視察に行ってきました。

行って真っ先に目に付いたのは、広い厚岸湾、そして本県の万石浦のような厚岸湖でした。この厚岸湖は、カキ養殖をするには実に適した漁場だと思いました。湖内には大小数本の川が流入しており、栄養は豊富にあります。夏期には水温が二十五〜三十℃にもなることから、カキの成長によい環境を求め、温度差を利

用して湖内から湾内へ、また湾内から湖内へと養殖場を移動した方法を取っているとのことでした。種苗はほとんどが宮城県産種苗を使っており、また、ほとんど北海道内で消費していると言っていました。

用して湖内から湾内へ、また湾内から湖内へと養殖場を移動した方法を取っているとのことでした。種苗はほとんどが宮城県産種苗を使っており、また、ほとんど北海道内で消費していると言っていました。

カキ人工種苗生産施設は、私たちが行ったときにはまだ稼働していません。詳しく視察できませんでしたが、施設を整備するに至る経過を聞くことができました。



種苗生産施設視察

昭和六十二年に本県唐桑町にある「かき研究所」の人工種苗生産技術をベースに試験を重ね技術をマスターしたそうです。しかし、産業的にするには、量産化技術の開発、生産コスト、本県産天然種

苗に対する優位性があるかどうか等課題が多くあり、平成六年に人工種苗技術で大きな成果を収めているオーストラリア、ニュージーランドを海外視察研修し、大量生産技術に関する様々な知見を得て、付着段階から単体でのシングルシード方式が、企業化する上で有効な技術であることを再確認し、今回国内初の施設を造ったそうです。

私も三年ほど前に漁業士会の海外視察研修で、シドニー、タスマニアのシングルシード人工種苗施設等を見てきました。最後に、今回視察に行きました厚岸町漁協の皆様には大変よくしていただき、そしていろんな意見交換ができ、大いに勉強させていただきました。これからもこういった交流の場をつくれたらよい勉強になると思いました。参加させていただきありがとうございます。

カキ学習会を開催して

青年漁業士 鈴木公義
(女川町漁業協同組合)

本支部の自主的活動として平成十一年九月十日に石巻地区漁協所属の伏見指導漁業士さん、県漁連石巻支所の後藤浅海課長さんを講師に学習会を開催しました。

はじめに、伏見指導漁業士さんから、国内で初めてのシングルシード(付着段階から単体にしたもの)によるカキ採苗施設の建設を行った厚岸町とその運営母体となる厚岸町漁協への視察報告が行われました。この方式は平成九年に漁業士

会でオーストラリアに海外研修に行った際に、一粒カキの養殖が本方式で行われており、形の整ったカキが生産されていました。この方式は今後一粒カキ生産の新しい養殖技術として注目されるのではないのでしょうか。

続いて、後藤課長さんから主にカキの流通に係る最近の動向をテーマに①輸入カキの実績、②カキの採取海域の表示について講演をいただきました。

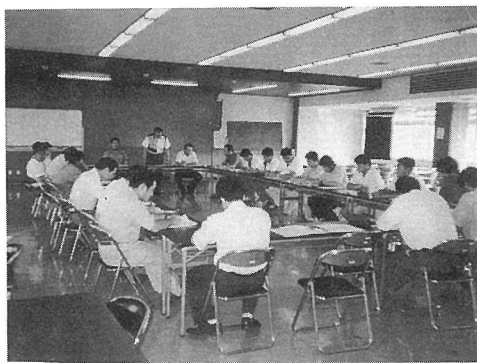
カキの輸入は、近年韓国産が急増しており、九十七年に四千八百トン、九十八年に八千二百トン、そして今年は七月現在で昨年の八割強の七千百トンが輸入されているそうです。今後、シーズンを迎え、さらに多くのカキが輸入されるものと思われませんが、幸い輸入されるものは生食用ではなく、加工用であることから、宮城のカキへの影響は少ないと思われます。特に産地表示が今シーズンから実施されれば韓国産の混入は違法となりますので、保健所などの検査対象として厳しく監視されることを期待しています。

当支部では、漁業士会の意義、そして役割は何か、私たちは何をすべきなのか常に考えております。役員以外の人が顔を合わせるのには総会だけではあまりにも寂しすぎます。会って話を聞き、発言しなければ何も生まれません。だからこその顔を合わせる機会を少しでもつくれたらと思います、自主学習会を開催しています。

日々の生活、仕事、それ以外の様々な活動に皆さんお忙しいことと思いますが、「学習会は必ず開催する」と決めるといふのはいかがでしょうか。今回も開催できたのは早めに日時を決定したこと、役

員のみならず一般会員の中から責任者を決め、内容検討を行ったことが開催の秘訣のような気がします。皆さんも一緒に参加してみてはいかがでしょうか。

講師の方、会員の皆さん、役員の方々



カキ学習会開催状況

そして事務局の皆さんのおかげで開催できて本当にありがとうございました。

▼南部支部

「荒浜漁港水産まつり」に参加して

青年漁業士 菊池 勉
(巨理町漁業協同組合)

さる十月十日体育の日、巨理町では国民保養センター前駐車場をメイン会場として「伊達な巨理活き生きフェスタ 荒浜漁港水産まつり」が開催されました。昨年までは名物の「はらこめし」を中心として町の特産品を紹介する「はらこめしまつり・わたり市」を行っていました。が、はらこめしは町外の人にも十分知ら

れるようになったので、今年からは地元で水揚げされた魚介類を中心に紹介していくということになりました。当日は天候にも恵まれ、町内外から約一万六千人の来場者がありました。

まつりでは、巨理町の特産品の展示販売のほか、東北放送のラジオの公開放送が行われるなど、非常ににぎやかなものとなりました。

私たち漁業関係者は、地元で水揚げされたカレイ、アジ、カスゴなどをお客さんが自分で焼いて食べる「炭火焼きコーナー」や定置網で獲れたサケを野菜と一緒に鉄板で焼く「鉄板焼きコーナー」、漁協婦人部が中心となって作ったアカシタビラメのすり身汁を提供するコーナーに参加しました。いずれのコーナーもおいしいと評判でした。

また、底びき漁船が一日かけて獲ってきた魚を「ミニ競り」にして来場者に販売しましたが、一般の人は競り売りに触れる機会が少ないため、珍しさも手伝っ



まつりの炭火焼きコーナー

てなかなか好評でした。

今回のまつりは、どこも長蛇の列ができるほどの人気で大成功であったと言えます。来年はもっとお客さんに喜んでもらえるような祭りをつくっていききたいと思っています。

食品衛生についての 研修会に参加して

青年漁業士 後藤 晃
(鳴瀬町漁業協同組合)

漁業士会南部支部では、毎年通常総会の後に様々なテーマで研修会を行っています。今年五月二十一日に塩釜市の「ブライダルプラザわかば」で総会が行われたときには「食品の衛生について」というテーマで、塩釜保健所の荒井先生に講演をしていただきました。

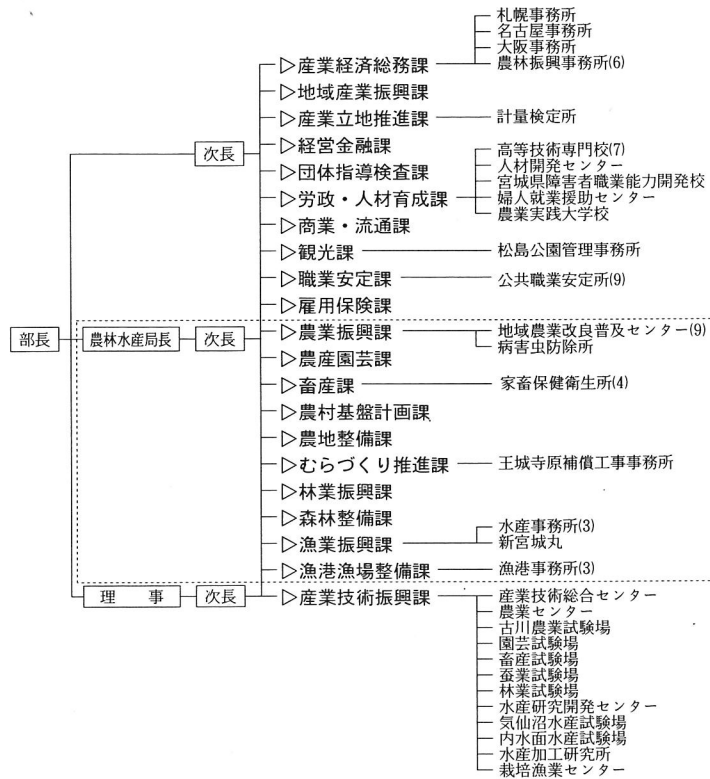
私たちはカキの養殖に携わっているの、普段から衛生対策には注意しており、また、最近では食中毒の事件が連日のように報道されているので、この研修会は興味をもって聞くことができました。

研修会は①食中毒の発生状況と種類、②予防の方法、③カキの収去検査について、④ノリの生菌数についてという構成で、特に腸炎ビブリオ食中毒の特徴や予防法など、我々漁業者にとっては非常に参考となる内容でした。

最近では、食品の衛生に対する消費者の関心が高く、私たち生産者はそれに応えていかなければならないところです。この研修会に参加したことを機会として、今後はより安全な水産物を提供するよう努力していききたいと思います。

宮城県産業経済部の組織

平成11年4月1日現在



食品衛生研修会開催状況

宮城県産業経済部の紹介

宮城県産業経済部は、産業経済の一層の振興・発展に向け、農業・林業・水産業・工業・商業及び労働の各分野の連携を強化し、情報・人材・技術・経営ノウハウなどの共有化を図りながら、生産から加工、流通、販売まで一体となった支援体制を整備することを目的として設置されました。

中部支部から

漁業士会中部支部は、現在、指導漁業士十四名、青年漁業士二十八名の合計四十二名で組織しています。

石巻地区の主要な生産種目ごとに会員の知見を広めるよう、毎年学習会を開催しています。また、イベントなどにも積極的に参加し、水産振興の一助になればと思っています。

主なイベント紹介

時期	場所	イベント名
一月	雄勝町	おめつき
二月	女川町	女川の四季（冬祭り）
三月	牡鹿町	黒潮牡鹿の味自慢市
四月	牡鹿町	牡鹿町水産まつり
五月	女川町	女川の四季（春祭り）
六月	女川町	やまと地場産品まつり
七月	矢本町	ジミ祭
八月	矢本町	赤井ふれあい朝市
九月	女川町	女川みなとまつり
十月	牡鹿町	金華山龍神まつり
十一月	石巻市	石巻川開き祭り
十二月	雄勝町	おがつ夏祭り
	北上市	にっこり夕市
	牡鹿町	牡鹿町鯨まつり
	石巻市	女川の四季（夏祭り）
	女川町	いしのまき大漁まつり
	矢本町	秋刀魚収穫祭
	雄勝町	赤井ふれあい朝市
	女川町	雄勝町はたてまつり
	牡鹿町	女川の四季（秋祭り）
	石巻市	おしかホエールランドまつり
	河北町	いしのまき市産品まつり
	矢本町	やまと地場産品まつり
	北上市	にっこり歳の市
	女川町	女川町水産まつり

今回は北部支部を紹介します。

原稿募集について

海人も第三号となり、内容もますます充実してきました。これも漁業士皆様方の意欲の現れと考えております。

そこで、次号から皆様の意見を載せるコーナーなどを作りたいと思います。漁業士会に対するいろいろな意見や、自分の仕事の紹介など、自由な内容で、四〇〇字詰め原稿用紙一枚から一枚半程度にまとめ、漁業士会事務局まで送付してください（受付は随時行いますが、発行は年一回ですのでご了承ください）。

なお、原稿と一緒に写真を掲載したい場合は一枚に限り可能ですので、原稿と一緒に送付してください。写真は後日返却します。

海人編集委員

編集委員長 三浦伸一
 北部委員 鈴木章登
 中部委員 伏見真司
 南部委員 内海公男